虹色

泉 愛依

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト http://pdfnovels.net/

注意事項

は「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒ 囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致し ナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範 テ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。 この小説の著作権は小説の作者にあります。 このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タ 小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。 そのため、作者また

【小説タイトル】

虹色

【スロード】

【作者名】

泉愛依

【あらすじ】

あの虹の様な色々な色の物語りを1人の女の子がおくる、 お

話

ふと教室の窓の外をみた。

今日は妙に晴れていて天気がいい。

まるであの日の様に。

「では以上ー。 宿題ちゃんとやっとけよー。

数学の授業が終わった。「起立。礼、終わります。」

まぁ大体聞いてなかったけどね。

「美希~。 ここの問題とけた~?…ってノート真っ白じゃん。

「あぁ。...何かボーっトしてた。」

「全く...。 はいっ。私のノートうつしなっ!」

「あっありがとっ。」

高校生になってから出来た友達の小百合はいつも頼りになる。

アタシと大違い。

「それよりアタシ、お腹減ったー。」

まぁ...。じゃっ、お昼にしよっか。

「うん!」

アタシはノートより昼ご飯を選んだ。

何よりアタシは食べる事が大好きなのだ。

. 小百合の弁当はいつもおいしそー。」

ありがとっ。こうみえて毎朝私が作ってるのよ!」

えー!凄ーい。アタシには無理だね。

あはは。 マジで!ありがとー。 じゃあ明日、 お弁当、 美希にも作ってきてあげるよ。

こうしていつの間にか学校は終わった。

まぁアタシの学校での生活はいつもこんな感じ。

ファミレスの店でアルバイトをしてるんだ。この後はバイトがある。

「早く行かなきゃ。」

アタシはバスへのり、バイト先へ向かった。

「遅くなりましたっ。」

1分遅刻。 。 全 く、 時間は守りなさいって何回言ってると思ってる

゙すみませんでした。以後気をつけますっ。」

ここの店の店員。 つもアタシが少し遅れただけでケチつけてくる杉村っておばさん。

遅れるのはアタシが悪いけど... ホントにウザイ。

「もうっ。 気をつけなさいよ」

'はいっ。本当にすみませ

「ヤベー遅刻つ。

ん?誰?

男の子が入ってきた。 アタシと同じくらいの頭が茶色で黄色いメッシュがはいった派手な

「あなたっ。 今日から働くというのに遅刻なんて許されませんよ!

!それに何その頭はっ!」

杉村さんが怒った。

てか、今日からバイト始める子かぁ。 名前は... なんだろ?

なおすよっ。 「ごめんおばちゃんっ。今日先生に怒られてさっ。 頭は...明日染め

... あはっ。 おばちゃんだって!

「おばちゃんとは何ですか!?もう!さっさとこの服に着替えなさ

杉村さんはカンカンに怒っ たまんま店内へ行ってしまった。

「はぁ...つっかれたー。」

「おばちゃんはヤバいよ。」

アタシは笑いながらその子に話しかけた。

「そお?あっ!俺今日からここでバイトすんだっ。 松本翼つ。

いきなり自己紹介かよっ。

「あっ…アタシは高橋美希。どこの高校?」

その後も松本くんとの会話ははずんだ。

おいっそこの2人一。 さぼってないでさっさと働けー。

「ヤベー。すぐ行きます!」

「は」い。」

私達はそれぞれの場所へ向かった。

「じゃあまた後でな。」

「うんつ。」

楽しくなりそおだなー。 バイトやって、こんなに楽しく話したの初めて。

って今になって思うな。 この時からアタシと彼の物語りは始まっていたんだ。

PDF小説ネット発足にあたって

ビ対応 行し、 公開できるように 小説家になろうの子サイ ています。 部を除きインター 最近では横書きの F小説ネッ の縦書き小説 の縦書き小説 そん をイ を思う存分、 たのがこ な中、 ネッ 書籍も誕生しており、 タテ書き小説ネッ ト関連= 誰もが簡単にPDF形式 ネッ て誕生しました。 ト上で配布す 小説ネッ 横書きという考えが定着しよ てください。 トです。 既 は 2 0 存書籍 タイ いう目的の基 07年、 の電子出版 小説を作成 小説が流 ンター

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。 http://ncode.syosetu.com/n8084c/

虹色

2010年12月31日18時44分発行